

## 姫路市商工会管内地域経済動向調査報告

(2023年9月値・要約版)

本調査は、姫路市商工会管内が、兵庫県及び全国と比較してどのような特徴があるのか等を分析しており、姫路市商工会HPで公開している。

経営状況の分析や事業計画策定に活用することを目的に広く管内事業者等に周知するとともに、経営指導員等が巡回指導を行う際の参考資料とする。

※本調査報告内に表記される「姫路市」とは原則「姫路市商工会管内(夢前町、安富町、香寺町、家島町)」を指す

(出展:小規模景気動向調査、兵庫県中小企業景況調査、姫路市商工会景況調査、他)

<用語説明> DI値 = 「好転」企業割合から「悪化」企業割合を差し引いた値を示す

例. 調査事業所数 10、「好転」事業所数 2、「変化なし」事業者数 4、「悪化」事業所数 4 の場合

好転:  $+25\% \times 2 = +50\%$ 、悪化:  $-25\% \times 4 = -100\%$  差引:  $-50\%$  が DI 値となる

### 産業全体の景気動向の推移

#### <概要>

全産業のDIがいずれも前期より悪化した。下落幅はいずれも1~2ポイント程度と小幅であるが、前回調査で比較的大きい改善が確認されて以降、景況はやや足踏み状態にあることがわかる。

経営上の問題点としては、引き続きコスト面をあげる経営者が多数を占める。加えて、製造業、建設業、小売業の3分野で「人件費の増加」を指摘する割合が増加したが、中でも製造業ではその割合が2.3ポイントと他に比べても大きく増えており、コスト増加に直面する中小企業の経営者が多いことがうかがえる。今回の調査結果では、全ての分野の主要3DIが小幅ながら悪化し、中小企業の景況がやや停滞傾向にある可能性が示された。最新の日銀短観(2023年9月)の調査結果においても、中小企業の業況判断DIは「先行き」に関して総じて慎重な姿勢が見られるが、特に非製造業において物価上昇を背景とするコスト増や需要の減少、深刻な人手不足による従業員の確保難、人件費増加といった様々な問題が懸念されており、先行きの不透明感は払しょくされていない。今後の景況の推移には引き続き注意が必要である。

#### <地域別>

##### 【全国】

2023年7-9月期の全産業の業況判断DIは、▲20.3(前月差1.2pt減)となり、前月から悪化した。

製造業の業況判断DIは、▲24.2(前月差0.4pt減)となり、前月から悪化した。

建設業の業況判断DIは、▲25.8(前月差2.4pt減)となり、前月から悪化した。

商業の業況判断DIは、▲28.4(前月差3.9pt減)となり、前月から悪化した。

サービス業の業況判断DIは、▲2.7(前月差1.7pt増)となり、前月から改善した。

全産業DIは悪化した。業種によっては改善している。エネルギーなどコスト負担増加や節約志向の高まりのほか海外経済の停滞も加わり、小幅ながら広範囲の地域や業種で下落傾向となった。

##### 【兵庫県】

企業の業況判断は、足もと改善し、先行きも横ばい圏内を見込んでいる。

個人消費は、回復に向けた動きが広がっている。

輸出は、増勢が鈍化している。設備投資は増加計画にある。

生産は、一部に弱めの動きがみられるものの、全体として横ばい傾向にある。

有効求人倍率は、前月と同水準であった。雇用者所得は、全体として改善の動きがみられる。

倒産件数は、前年を上回った。

## 【姫路市商工会管内】

姫路市の業況は、▲12.5 となり、全国 DI(▲20.3)、兵庫県 DI(▲17.9)と比較すると、最も高い。

売上高は、▲6.3 であり、全国DI(5.6)、兵庫県DI(▲3.7)と比較すると最も低い。

採算状況は、▲25.0 で、全国DI(▲32.1)・兵庫県DI(▲29.2)と比較すると、最も高い。

資金繰りは、▲18.8 で全国 DI(▲27.3)と比較すると良いが、兵庫県 DI(▲15.6)よりは低い。

姫路市商工会独自調査における代表的なコメントを以下に記す。

### (サービス業)

- ・酷暑のため、例年よりも顧客数が減少した。
- ・高齢化に伴い、弊社対象顧客は増加するものの異業種参入が多く、競争が激化している。

### (商業 小売、卸売等)

- ・車両機能の向上により故障が減少し、売上も減少。修理依頼があっても部品代が上昇しているため、工賃までの値上げがし難い状況である。
- ・働き方改革に伴い、海運業が休日を設けるようになったため、売上に減少が見られる。
- ・仕入高、水道光熱費等の高騰に対して、価格転嫁が出来ておらず利益を圧迫している。
- ・人手不足により配達等の受注を断らざるを得ず、失注が生じている。
- ・光熱費の高騰が厳しく、店舗をより小規模にするための移転を検討している。

### (建設業)

- ・インボイス制度の開始に伴い、協力企業の選定等に頭を悩ませることが増加しそうである。
- ・原材料費の高騰を、完全に価格転嫁できておらず、利益の圧縮に繋がっている。

### (製造業)

- ・人手不足と原材料・光熱費等の高騰が経営に悪影響を及ぼしている。
- ・国内需要の停滞、設備・建物の老朽化、インフレによる仕入価格の上昇から、価格転嫁の必要性が高まっている。
- ・元請企業による受注により売上が左右されるため、見通しがつきづらい。

## <業種別業況>

全国的な産業全体の業況は、前月に比べて採算・資金繰りDIがわずかに改善したものの、売上額DIが小幅に悪化、業況DIはわずかに悪化した。一時的な売上回復とその反動減で売上が安定しない。取引先の業績悪化のため、売上が回復しない店舗もある等のコメントが見られた。大企業製造業の景況感は堅調さがある一方、小規模事業者の景況感は力強さに欠け、先行きに対する不透明感が依然として強い。

## <総括コメント>

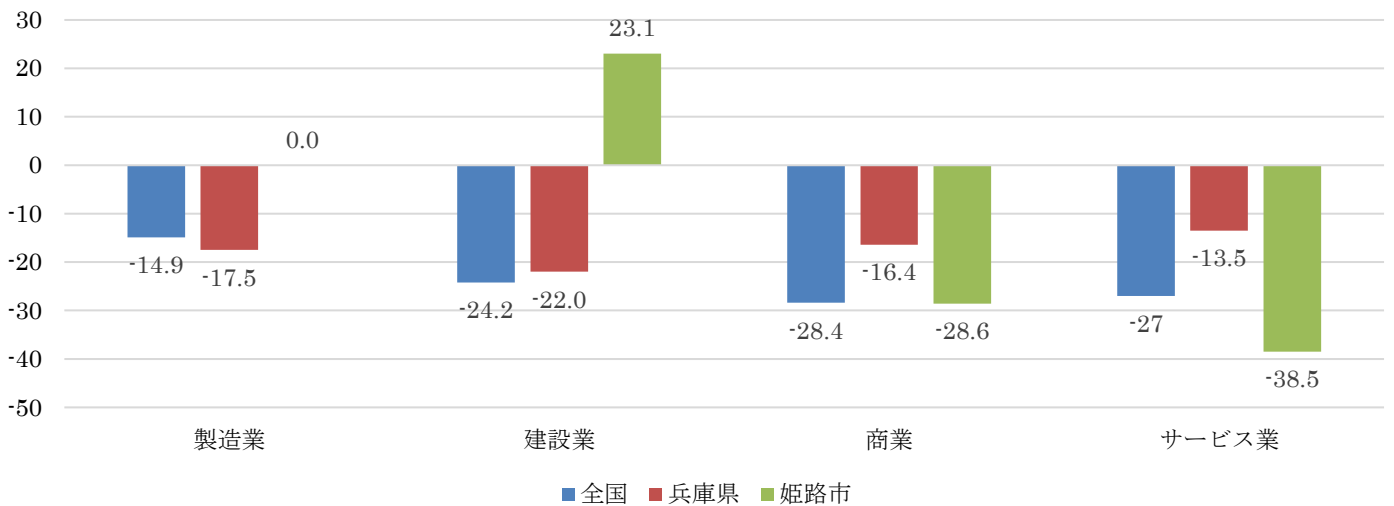
国内景気は、緩やかに回復している。

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引き締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。

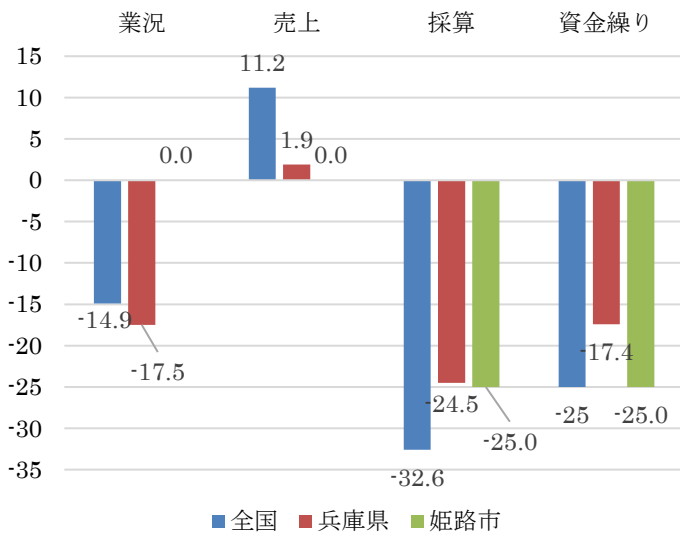
また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

# 業種別 DI 比較グラフ

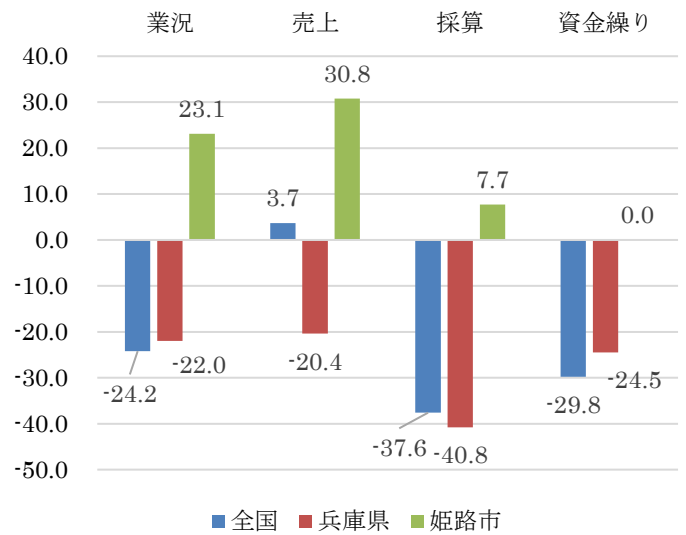
## 業種別 業況DI値比較



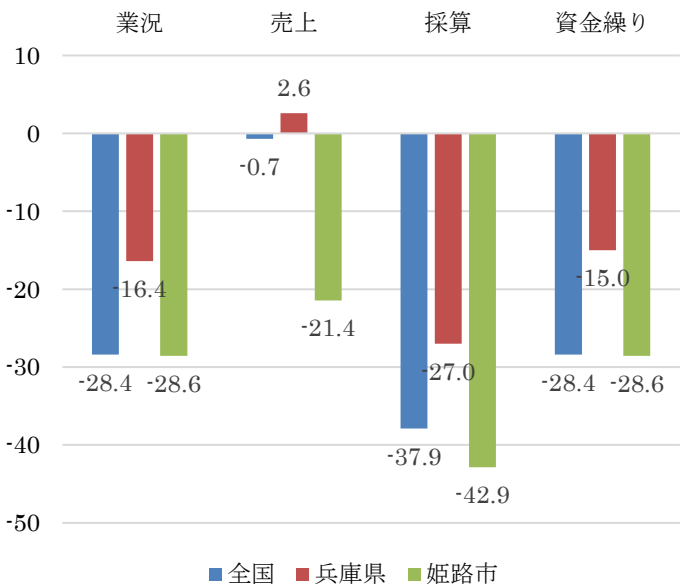
### 製造業DI値



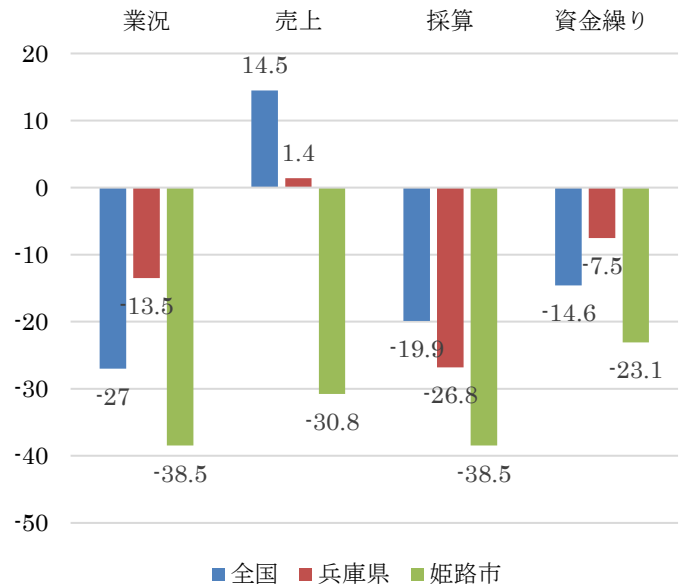
### 建設業DI値



### 商業DI値

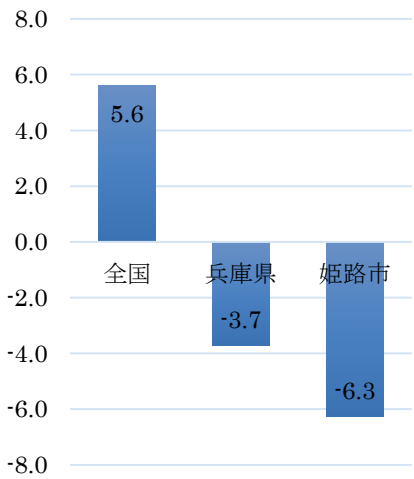


### サービス業DI値

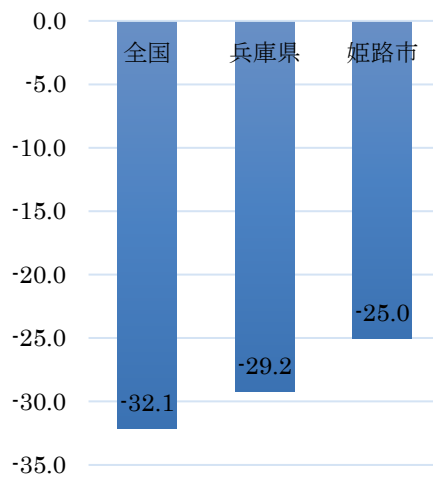


## 全業種 DI 比較

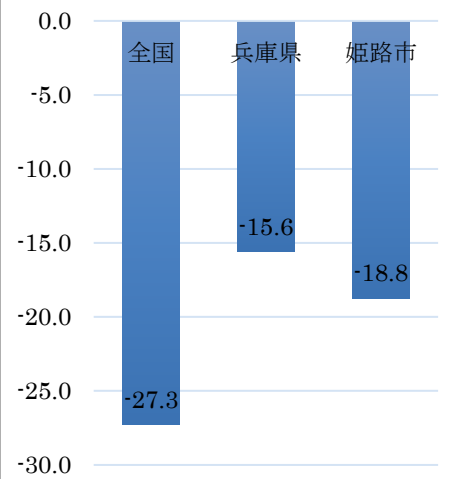
### 売上DI値



### 採算DI値



### 資金繰りDI値

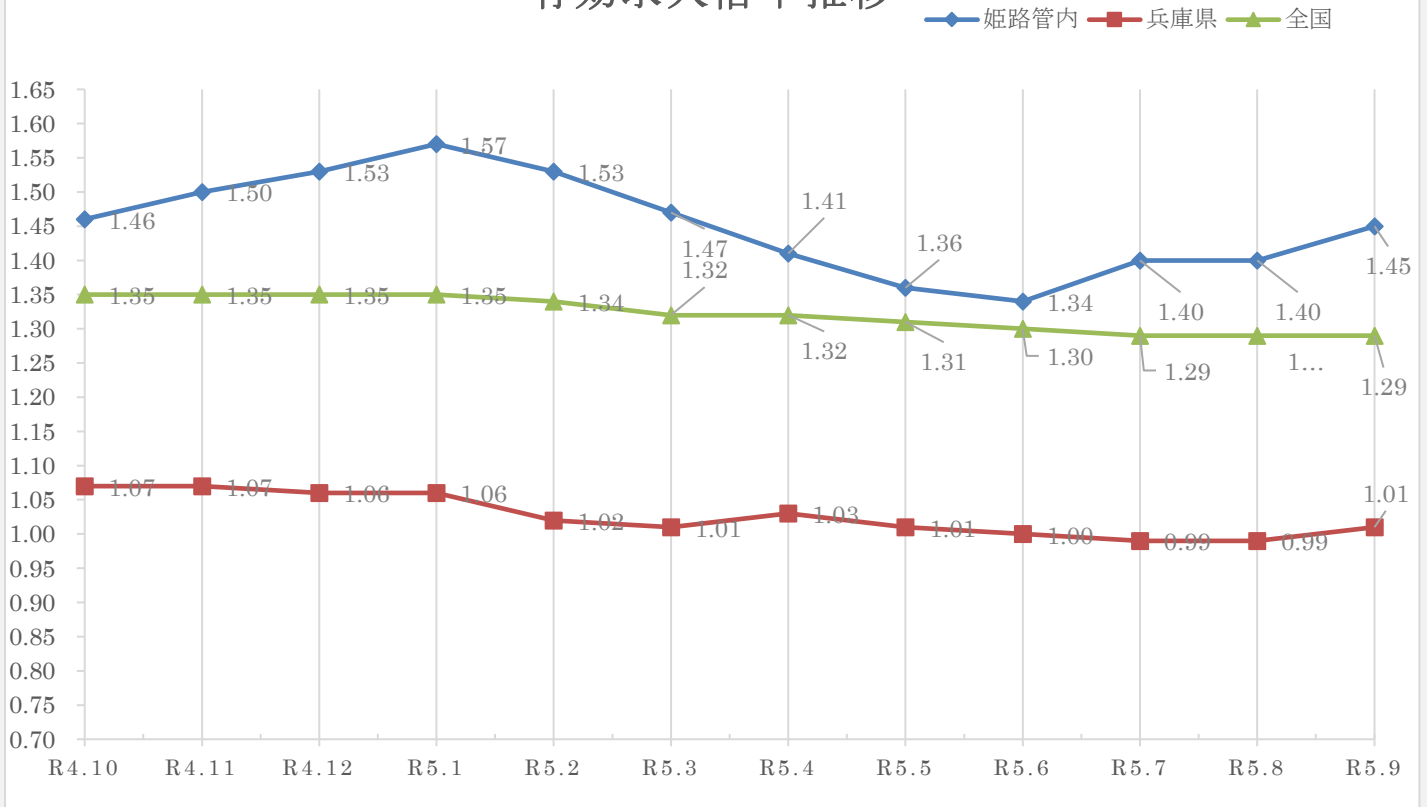


## 管内の雇用情勢

〈用語説明〉有効求人倍率 = 求人数 ÷ 求職者数 例. 求人案件が 20 件 求人応募者 10 人 なら 2.0 倍  
 令和5年9月期の有効求人倍率は、全国 1.29 倍、兵庫県 1.01 倍、姫路管内 1.45 倍となっている。  
 令和4年10月から1年間の推移を見ると、全国と兵庫県においてはほぼ横ばい傾向である。  
 姫路市は令和5年1月までは増加傾向であったが、そこをピークに減少するものの6月頃から回復傾向にある。

景気の先行き不透明感から雇用が多い建設業や製造業の間で、人手不足でも新たに従業員を採用するには慎重な動きが続いている。兵庫労働局は足元の雇用情勢についての判断を据え置き「持ち直しの動きにやや弱さが見られる」との見方を7カ月連続で示した。

## 有効求人倍率推移



▲全国・兵庫県・姫路市(ハローワーク姫路管内)直近1年間の有効求人倍率推移比較